

**委託事業実施内容報告書**  
**平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(A)】**

**内容報告書**

団体名：学習院大学

**1. 事業の概要**

事業名称	ライフステージにあわせた日本語教育—地域に開かれた大学をめざして—
事業の目的	継続的・自律的な学びを促す活動・教材を開発し、ニーズや学習環境の異なり・変化に配慮した日本語教育プログラムを実施する。また、自律的な学びをテーマに研修を実施し、人材育成を通じて地域日本語教育の充実に貢献する。公共施設や医療機関等の協力も得つつ教材を開発し、一般市民の日本語学習理解を深めると同時に、日本語教育を通じ、知(地)の拠点として地域に開かれた大学となることをめざす。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	豊島区は現在、24,540人の外国籍住民が暮らし、都内で4番目に外国人の多い特別区である(平成28年1月1日現在)。8つの日本語教室が開講されているが、増え続ける外国籍人数に比して、これらの日本語教室への参加者数は必ずしも伸びてはいない。これは、学ぶ必要がないからなのではなく、これらの教室が在住外国人のニーズや学習条件・学習環境、「学ぶ力」のレディネス等に十分に答えていないからだと考えられる。在住外国人が主体的に日本語学習を進める環境作りが求められている。
事業内容の概要	本事業では以下の3つの取組を通じて上記の課題を解決する。 ①日本語教育の実施(「学ぶ力」を身に付ける日本語教室)：在住外国人の「生活のための日本語」に対するニーズやレディネス(日本語能力、学習条件等)を配慮し、自ら学ぶことを促す要素を日本語教育プログラムに組み込み実施する。 ②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施(「自律的学習を促す環境作り」を目指した研修)：学習への動機づけをし、動機の維持をはかるための活動のあり方、学ぶ力の育成方法、自律的学習を促す教材、等をテーマに研修を実施し、学習者の学ぶ力に配慮した活動を計画できる人材を育成する。 ③日本語教育のための学習教材の作成(学ぶ力の育成を目指した「生活のための日本語」教材の開発)：学習者自身が学ぶ喜びを感じることができ、自らの学びを管理できる教材を開発し、日本語学習の継続が容易となる環境作りに着手する。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月 (11か月間)

**2. 事業の実施体制**

**(1) 運営委員会**

**【運営委員】**

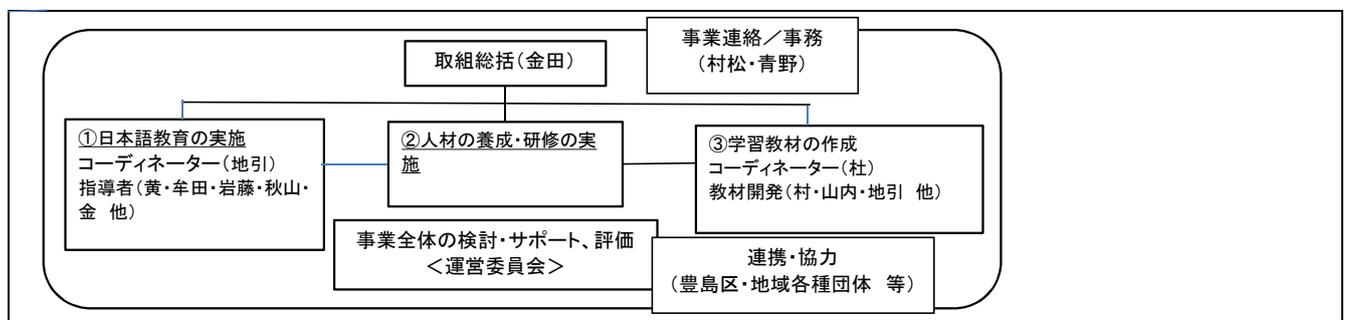
1	金田智子	学習院大学文学部
2	村野良子	学習院大学文学部
3	小出友子	豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習グループ
4	品田潤子	公益社団法人国際日本語普及協会<AJALT>
5	吉田聖子	あけぼの会
6	米勢治子	東海日本語ネットワーク
7	文野峯子	人間環境大学



**【概要】**

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年12月5日(月) 14:00～16:30	2.5時間	学習院大学 中央教育棟 国際会議場	小出友子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、金田智子、村松弘一、青野結子、島田郁代、地引愛、唐木澤みどり、社長俊	1. 平成27年度事業の課題と、平成28年度事業の概要に関する意見交換 2. 3つの取り組みの実施状況と課題の検討
2	平成29年1月20日(金) 14:00～16:30	2.5時間	学習院大学 南1号館 103号教室	小出友子、文野峯子、吉田聖子、金田智子、村松弘一、青野結子、地引愛、唐木澤みどり、社長俊	1. 取組1の実施状況と現段階の課題の検討 2. 取組2の実施状況と、最終回の公開講座に関する意見交換 3. 取組3の成果物(教材)を取り上げ、成果及び課題の確認
3	平成29年3月4日(金) 10:00～12:30	2.5時間	学習院大学 南1号館 102号教室	小出友子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、村松弘一、青野結子、地引愛、唐木澤みどり、社長俊	1. 3つの取組の実施報告と、来年度に向けての課題検討 2. 今年度事業の評価 3. 来年度の計画に関する意見交換

**(2) 事業の実施体制**



**(3) 地域における連携体制**

豊島区の後援を得ており、本事業実施にかかる各種サポート(運営委員、指導・助言、広報、情報提供等)を受けている。また、日本語教室の実施において、区内の消防署や国際交流団体の支援を得ることが恒常化している。また、長年にわたり、本学で日本語教育を専攻する学生・院生が豊島区教育センターにおける外国人児童生徒に対する指導の支援を行うなど、地域在住外国人の日本語学習を支援することを通じ、地域と大学の連携が進んでいる。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:「学ぶ力」を身に付ける日本語教室 <教室A:ぐんぐんクラス>】									
目的・目標	1. 在住外国人が、地域社会で安全かつ快適な生活を送れるよう、必要な日本語の能力を身に付け、社会文化知識に対する理解を深める。 2. 日本語学習に対する興味関心を維持・促進する教材・活動・学習ポートフォリオを通じて、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。								
対象	・豊島区在住・在勤の外国人(特に、学習機会に恵まれない、生活のための日本語が身につけていない人々) ・「ぐんぐんクラス」については、日本語を教室等で学習した経験のない外国人、2015年度わくわくとしま日本語教室の「わくわくクラス」で学習した外国人、日本についての知識は豊富であるが、一人でできることが限られている外国人を対象とする。								
取組の内容	・豊島区在住・在勤の外国籍住民の内、就業・育児等により学習機会に恵まれなかった人々に対し、地域社会で生きていくために必要な日本語と社会文化知識を扱う日本語教室を企画・運営する(「わくわくとしま日本語教室」)。日本語や日本語社会に関する基礎知識を学ぶだけでなく、「学ぶ力」を引き出すプログラムとする。生活に必要な日本語を確実に身につけながら、「学ぶ力」を育てることを意図した活動を計画し、そのための教材を用いる。同時に、日本語に対する興味、日本語学習に対する動機が維持・促進できるよう、各回の教室指導を達成感・やがいの感じられるものとする。具体的には、自律学習、パフォーマンス重視の学習、問題解決型学習の導入である。指導者には、外国人も配置し、媒介語や多文化性を生かした授業を展開する。また、日本語教室の学びが、教室参加後の自律的な学びにつながるよう、自己評価及び学習管理方法を知ることのできる学習ポートフォリオを作成し、活用する。 ・「ぐんぐんクラス」では、「標準的なカリキュラム案」を参考とし、処方箋薬局や地震災害時の対応など、安心・安全に関わるという点で必要度が高いと思われるテーマを扱う。併せて、豊かな暮らしができるようになることを念頭に、地域社会とつながり、日本社会での充実した生活基盤の構築と地域住民の外国人住民への理解を目指し、地域住民を招いたゲストセッションを行う。同時に、日本人との人間関係を築く上で有用となる言語表現(お土産を渡す・話のきっかけを作る会話等)を扱う。また、授業毎に、「学ぶ力」をつけるための時間を10分程度設け、スマートフォンアプリやネットでの検索方法を紹介し、教室外でも自律的に学べるようにすることを目指す。								
実施期間	平成28年 6月 11日～平成28年 10月 29日	曜日・時間帯			土曜日(10:00～12:30)				
開催回数	全50時間(1回2.5時間×17回、1回3.75時間×2回)			開催場所			学習院大学 南1号館306号室		
参加者	総数 25人 (日本語学習者 16人、協力者(ゲスト等) 9人)			使用した教材・リソース			自主作成教材		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	3	0	0	0	1	1	0	0	0
日本(協力者8人)、ミャンマー(3人)、台湾(3人)、アメリカ(2人)、オランダ(1人)、コロンビア(1人)、フランス(1人)、シリア(1人)									
カリキュラム案活用	参加学習者の背景や滞在目的、言語環境、日本語使用場面、日本語能力、学習環境を把握した上で、「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例(以下、「標準的なカリキュラム案」とする)に準拠したシラバスデザインを行った。さらに、「生活上の行為の事例の整理」(標準的なカリキュラム案開発過程における資料)にある項目を参考に学習内容を加えた。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成28年6月11日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	9	①オリエンテーション ②.日常のあいさつをする(近所の人と)①	①授業の計画や学習ポートフォリオの使用 方法を紹介します。目標設定を行う ②近所 の人とエレベーターで遭遇した際の簡単な あいさつを学習する	牟田綾	秋山文菜 黄臣成 金紅艶(通訳) 鈴木聡(通訳) 王達人(保育)	
2	平成28年6月18日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	9	レストラン (間違いの指摘・催促)	注文と違う品物が来たときの訂正、品物が 遅いときの催促など、レストランで起こる小 さなトラブルへの対応とその言語表現を学習 する。	黄臣成	金紅艶 山内裕美子 王達人(保育)	
3	平成28年6月25日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	12	買い物 (試着)	洋服購入の際の試着の依頼、サイズ・色 の変更の依頼、試着後の裾上げ等依頼表現 を学習する	地引愛	岩藤かおり 山内裕美子 王達人(保育)	
4	平成28年7月2日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	12	お祭り (地域行事への参加)	地域のイベント(お祭り)について、地域の 人に尋ねる表現を学習する	村麻央	秋山文菜 山内裕美子	
5	平成28年7月9日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	12	郵便局	国内に小包を送る際の荷物到着日程の確 認、予算内の郵送方法の選択など、郵便 局員とのやりとりを学習する	牟田綾	金紅艶 山内裕美子 王達人(保育)	
6	平成28年7月16日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	10	病院 (診察)	病院での診察の際に、自分の症状を詳しく 話すためのオノマトペを学習する	山内裕美子	金紅艶 高木ひかり(保 育)	
7	平成28年7月23日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	11	処方箋薬局	処方箋薬局で、薬剤師から薬の飲み方に関 する説明聞いて理解できるといった、薬に 関わる表現を学習する	秋山文菜	山内裕美子	
8	平成28年7月30日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	9	ゴミ (粗大ゴミ)	粗大ゴミを捨てる際の申し込みを、近所 の人に依頼する表現を学習する	岩藤かおり	山内裕美子	
9	平成28年8月6日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	7	食券	食券の購入・使用方法を学習する	金紅艶	山内裕美子	
10	平成28年8月20日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	7	①第1回～9回の復 習 ②学習の振り返り	①これまでに学習した語彙・表現を復習する ②学習ポートフォリオを使い、これまでの自 分の学習を振り返る	地引愛	岩藤かおり	
11	平成28年8月27日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	5	①オリエンテーション ②.日常のあいさつを する(近所の人と)②	①前回の学習の振り返りを基に、学習ポ ートフォリオを使用し、自分の新しい目標を立 てる ②近所の人やよく行く店の店員と親し くなるために、話すきっかけ・話題について 学習する	秋山文菜	岩藤かおり 黄臣成(通訳)	
12	平成28年9月3日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	7	電車 (遅延対応)	事故等で遅れている・電車が来ない場合の 対応を知る。また、アナウンスがわからない 際近くの人に尋ねる表現を学習する。	岩藤かおり	秋山文菜	
13	平成28年9月10日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	6	地震・防災	『東京防災』を利用し、大地震等の災害が あった際の対応・避難場所について知る。ま た、状況がわからない際近くの人に尋ねる 表現を学習する。	秋山文菜	金紅艶	
14	平成28年9月17日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	7	公民館	公民館でどんな人がどのように利用してい るかを学ぶ。区内のサークルリストから、参 加したいサークルを探すための語彙を学習 する。	金紅艶	山内裕美子 岩藤かおり	
15	平成28年9月24日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	6	美容室	美容室で予約の有無を伝え、美容師に希望 の髪型を伝え、相談する表現を学習する。	岩藤かおり	秋山文菜	
16	平成28年10月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	6	近所の人と楽しく話 す①	10月22日のイベントでの茶話会に向けて、 イベント協力者と会話のきっかけを作り、話 を続けるための表現を学習する	村麻央	秋山文菜	

17	平成28年10月15日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館306室	4	近所の人と楽しく話 す②	10月22日のイベントでの茶話会に向けて、相手に肯定的な印象を与えられるような反応の示し方を学習する	金紅艶	岩藤かおり
18	平成28年10月22日(土) 9:00~12:45	3.75	学習院大学 南1号館306室	12	ゲストセッション (イベント)	目白区民ひろばで活躍しているフラダンスサークル「フラ ナホク イリマ」を迎え、公民館の利用方法の紹介・実演・体験・茶話会を行う	秋山文菜	金紅艶
19	平成28年10月29日(土) 9:15~13:00	3.75	学習院大学 南1号館306室	5	①お礼のメール ②友人を誘う ③振り返り	①前週のイベント協力者へお礼のメールを書く ②親しくなった後、友人を食事に誘う表現を学習する ③学習ポートフォリオを使い、これまでの自分の学習を振り返る	牟田綾	秋山文菜 金紅艶(通訳)

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第2回 平成28年6月18日以降:「学ぶ力」をつけるための活動】

教室外で日本語学習が自律的・継続的に行われるよう、学習者の身近なものを教材として紹介し、学習機会を増やすことを促すと同時に、学習をするための工夫を提示した。今回は代表的な2例を記載する。

代表的な1例として、毎回10分程度の「学ぶ力」をつけるための活動が挙げられる。この時間は、授業テーマに関わる漢字や表現の意味と読み方がわかることを学習目的とした。目的を達成するための補助教材として、漢字の打ち込みができなくても、漢字の読みや意味を調べることのできるスマートフォンアプリを紹介した。その後、全授業を通して、学習者がわからない文字に遭遇したときに自由に利用できるようにした。[写真:左2枚]

2つ目のとして、地震災害の授業が挙げられる。9月10日の地震災害に関する授業では、東京都民に配布された災害に関する冊子「東京防災」を教材として利用した。イラストを見ながら、大地震が起きた際の行動を理解するとともに、付録の区内地図を利用し、各学習者が自宅の位置を確認した上で、自宅から一番近い避難所を探し、知る授業を行った。[写真:右2枚]



### ○取組事例②

【第18回 平成28年10月22日】

目白区民ひろばで活躍しているフラダンスサークル「フラ ナホク イリマ」との連携で、区民ひろばでの活動内容を紹介するイベント(ゲストセッション)を実施した。目的は、①区民ひろばの利用及び利用団体の活動を知る、②日本人との人間関係構築の実践、③地域住民の外国人に対する理解を深める、の3点である。

当日は、①講師による区民ひろばの利用方法の紹介、②サークルのみなさんによる活動内容の紹介、③フラダンスの実演、④フラダンスの体験、⑤お茶を飲みながらの茶話会という流れで行われた。

写真は左から、「フラ ナホク イリマ」のフラダンスの実演、学習者を含めたフラダンスの体験、茶話会の様子。



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

10月29日に、継続的に通いつけた学習者を対象に、教室を振り返るアンケートとコンサルテーションを行った。

アンケートによると、どの学習者も、教室に通ったことにより、日本語を使う機会が増えた、日本語が上手になった、日本で生活しやすくなった、日本の文化・社会・習慣の知識が増えたという概ね肯定的な評価をしている。

コンサルテーションでは、日本語でメールを送ることができるようになった、インターネットを通じて辞書を利用できることを知り、町中でわからないことを解決できるようになったなど、できる行為が増えてきたという反応があった。日本語のできる行為が増えることで、日本語能力が向上したと感じられるという感想も聞かれた。しかし、今回のアンケートとコンサルテーションは、継続的に参加し続けた学習者のみを対象としたものであるため、途中で辞めた学習者の状況については不明である。

また、「とよた日本語能力判定」の「とよた日本語能力レベル」を評価軸に学習者とのやりとりや学習者の成果物から指導者による評価を行った。年間を通して継続的に教室に通った学習者の結果を見ると、どの学習者も、四技能(読む・書く・聞く・話す)のうち、少なくとも1つの技能について1レベル以上伸びていた。数値として明確な向上が見られない項目に関しても、要支援段階(レベル2)から、次のレベルである自立段階(レベル3)にかなり近いレベルに達成していると判定でき、少しではあるが、日本語能力の伸長が見られた。

### 2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

継続的・自律的な学びにつながる力を培うための支援として、授業内外において学習者自身が日本語学習の経過を記録する「学習ポートフォリオ」を使用した。教室開始後まもなく、前年度からポートフォリオを使用している学習者の状況を例に、記録する意義や方法を伝え、「日本語をたくさん話す」「日本語が上手になる」というような抽象的な目標ではなく、「職場で日本語を話す機会を増やす」や「教室で勉強したことを外で使う」というような具体的な目標設定を行うことができていた。また、前年度から使用している学習者は、一度立てた目標を途中で自分の生活に見合った目標に変更するなど、自分の学習を管理するツールとして利用している様子もあった。しかし、学習を管理することが得意ではない学習者には、学習ポートフォリオの効果や意義、使い方について十分に伝わらないところがあった。

また、今回の学習ポートフォリオは教室実施中の学習管理が中心となっているため、教室終了後の学習管理については将来の希望を述べる中長期的目標を意識することとなっている。教室終了後の継続的・自律的な学びを促すための工夫がさらに必要である。

学習者への関心の維持・促進を目指し、各回の授業について達成感・やりがいの感じられるものとするを旨としたが、授業の目標設定とそれに至る授業設計について検討し、適切な方法・内容を実践することが十分にはできなかった。その結果、学習者が自宅での復習を行ったり、次回も教室に行こうと思ったりするといった学習動機の維持につなげることができなかったと考える。

(3) 今後の改善点について

1. 参加者の減少について  
 今年度は、教室開始時は10人以上の学習者が参加していたが、徐々に参加者が減り、最終的に、継続学習者は5名に留まった。参加者減少の理由として、前項(2)でも述べた通り、授業内容・方法に関する問題点が考えられ、参加者からも指導に関する否定的な指摘もあった。これまでも、指導力に関する否定的意見が学習者から告げられることはあったが、今年度は経験の少ない講師が担当する時期に学習者が減少したと思われる状況もあり、初任者に対する支援体制が十分でなかったことが反省点として挙げられる。各講師が1回1回の授業の中で、それぞれの学習者にとって学びがあるよう授業を工夫できる力を身に付けていく必要があるとともに、本教室が集団として培ってきた知見や、各講師の知識や経験を伝える人間関係作りをしていくこと、協働的に振り返り、改善をしていく力をチームとしても個人としても伸ばしていく必要がある。新年度には新たな人員が加わるため、教室を運営していくための会議の持ち方、講師間の協力方法などについてあらためて検討し、体制を整えていきたい。

2. 学習ポートフォリオの活用について  
 学習支援の一環として「学習ポートフォリオ」を使用した。今年度は、教室を開始してからまもなくして、自己の学習管理が得意な学習者には積極的に活用してもらえたが、学習を管理することが得意ではない学習者には、学習ポートフォリオの効果や意義、使い方について十分に伝わらないところがあった。学習管理が苦手な学習者にも、学習ポートフォリオの効果や意義が伝わるように、使用経験のある学習者からメリットを話してもらいなど、伝え方の工夫が必要である。また、継続的・自律的な学習を促すために教室終了後を見据えて、具体的に将来、日本語を使用して何がしたいか、何ができるようになりたいかなど、長期的な目標設定を行うとともに、それにむけたプロセスを話し合うコンサルテーションやそれを考え、記録できるポートフォリオの作成や追加修正など、ポートフォリオの見直しが必要である。

日本語教育の実施【活動の名称:「学ぶ力」を身に付ける日本語教室 <教室B:わくわくクラス>】

目的・目標	1. 在住外国人が、地域社会で安全かつ快適な生活を送れるよう、必要な日本語の能力を身に付け、社会文化知識に対する理解を深める。 2. 日本語学習に対する興味関心を維持・促進する教材・活動・学習ポートフォリオを通じて、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。								
対象	・豊島区在住・在勤の外国人(特に、学習機会に恵まれず、生活のための日本語が身につけていない人々)。 ・「わくわくクラス」については、日本語を学習した経験のない外国人、単語やあいさつなどの定型表現以外は使えない外国人、ひらがな・カタカナの読み書きが難しい外国人を対象とする。								
取組の内容	・豊島区在住・在勤の外国籍住民の内、就業・育児等により学習機会に恵まれなかった人たちに、地域社会で生きていくために必要な日本語と社会文化知識を扱う日本語教室を企画・運営する(「わくわくとしま日本語教室」)。日本語や日本語社会に関する基礎知識を学ぶだけでなく、「学ぶ力」を引き出すプログラムとする。生活に必要な日本語を確実に身につけながら、「学ぶ力」を育てることを意図した活動を計画し、そのための教材を用いる。同時に、日本語に対する興味、日本語学習に対する動機が維持・促進できるよう、各回の教室指導を達成感・やりがいの感じられるものとする。具体的には、自律学習、パフォーマンス重視の学習、問題解決型学習の導入である。指導者には、外国人も配置し、媒介語や多文化性を生かした授業を展開する。また、日本語教室の学びが、教室参加後の自律的な学びにつながるよう、自己評価及び学習管理方法を知ることのできる学習ポートフォリオを作成し、活用する。 ・「わくわくクラス」では、「標準的なカリキュラム案」を参考とし、病院や交通機関の利用、地震等緊急時の対応など、日本で生活する上で必要度が高いと思われるテーマを扱う。併せて、東京消防庁豊島消防署日出出張所の協力による通報訓練をはじめとする実践的な授業を通して、教室後の自律的な学習を促す。また、授業毎に、文字学習や「学ぶ力」をつけるための時間を10分程度設け、スマートフォンアプリやインターネット辞書を利用しながら、ひらがな・カタカナの読み書きから申込書、年賀状メールの書き方を学び、自律的・継続的な学習を促す。								
実施期間	平成28年 7月 23日～平成29年 2月 25日			曜日・時間帯			土曜日(10:00～12:30)		
開催回数	全75時間(1回2.5時間×27回、1回3.75時間×2回)			開催場所			学習院大学 302号室		
参加者	総数 48人 (日本語学習者 42人、協力者(ゲスト等) 6人)			使用した教材・リソース			自主作成教材(参照【日本語教育のための学習教材の作成】学ぶ力の育成を目指した「生活のための日本語」教材)		
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	6	0	0	0	2	0	2	0	1
	インド(8人)、アメリカ(6人)、ミャンマー(6人)、台湾(4人)、香港(2人)、イギリス(2人)、ドイツ(2人)、日本(協力者2人)アイルランド(1人)、オーストラリア(1人)、マレーシア(1人)、モロッコ(1人)、ベトナム(1人)								
カリキュラム案活用	参加学習者の背景や滞在目的、言語環境、日本語使用場面、日本語能力、学習環境を把握した上で、「標準的なカリキュラム案」に準拠したシラバスデザインを行った。さらに、「生活上の行為の事例の整理」にある項目を参考に学習内容を加えた。また、「標準的なカリキュラム案」の項目について、学習者の要望をたずねるアンケートを行い、第20回以降の取組テーマを選択する上での参考とした。								

日本語教育の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年7月23日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	17	①オリエンテーション ②.近所の人にあいさつをする	①授業の計画や学習ポートフォリオの使用方法を紹介し、目標設定を行う ②.近所の人と近所で遭遇した際の簡単なあいさつを学習する	黄臣成	岩藤かおり 村麻央 金紅艶(通訳) 王達人(保育)
2	平成28年7月30日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	10	買い物をする① (対面で)	デパートの地下や商店街などの対面販売において、注文・支払いの際の表現、数の数え方を学習する	地引愛	黄臣成 金紅艶 王達人(保育)
3	平成28年8月6日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	11	道聞きをする① (建物内で)	デパートや駅など、大きな建物において、トイレやほしいものの売り場を尋ねる表現を学習する	杜長俊	秋山文菜 村麻央 王達人(保育)
4	平成28年8月20日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	11	電車に乗る	駅員に目的地までの行き方・乗り換え駅を尋ねる表現を学習する	村麻央	秋山文菜 山内裕美子 黄臣成(保育)
5	平成28年8月27日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	11	ドラッグストアで薬を 買う	ドラッグストアで、店員に自分の症状を伝え、薬を購入する表現を学習する	杜長俊	山内裕美子 王達人(保育)
6	平成28年9月3日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	11	病院へ行く① (初診受付)	初診受付の際に必要な表現を学習する	山内裕美子	黄臣成 王達人(保育)
7	平成28年9月10日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	12	病院へ行く② (診察)	診察の際に自分の症状を伝え、医者からの注意点が聞いてわかるような表現を学習する	地引愛	村麻央 黄臣成 王達人(保育)
8	平成28年9月17日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	9	地震・火災に対応する	地震発生時の行動、発生後の行動を知る。地震が発生した際、対応が聞いてわかるような指示表現を学習する	黄臣成	秋山文菜 村麻央 王達人(保育) 高木ひかり(保育)
9	平成28年9月24日(土) 10:00～12:30	2.5	池袋防災館	5	防災館(体験)	池袋防災館で、震度6以上の地震を体験する。火事が起こった際の対処、消火器の使い方などを学習し、実際に使用する	黄臣成	山内裕美子 金紅艶(通訳) ハナーディ ラバビーディ(通訳)

10	平成28年10月1日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	3	①第1回~9回の復 習 ②学習の振り返り	①これまでに学習した語彙・表現を復習する ②学習ポートフォリオを使い、これまでの自 分の学習を振り返る	地引愛	岩藤かおり 金紅艶 黄臣成(通訳)
11	平成28年10月15日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	21	①オリエンテーショ ン ②レストランへ行く① (入店)	①学習ポートフォリオを使用して、前回の学 習の振り返りを基に、新しい目標設定を行う ②レストランの入店の際によく聞かれる人数 や禁煙・喫煙席などの表現を学習する	牟田綾	秋山文菜 村麻央 王達人(保育)
12	平成28年10月22日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	10	レストランへ行く② (注文)	レストランで、注文する際に必要となる簡単 な表現を学習する	村麻央	岩藤かおり 牟田綾 王達人(保育) 下津浦安希(保 育)
13	平成28年10月29日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	13	道聞きをする② (町中で)	町中で、目的地までの行き方・道を尋ねる際 の簡単な表現を学習する	杜長俊	村麻央 王達人(保育) 下津浦安希(保 育)
14	平成28年11月5日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	16	買い物をする (実践)	店の場所を通行人に尋ね、予算内で品物を 購入する実践を行う	地引愛	秋山文菜 金紅艶 村麻央 王達人(保育)
15	平成28年11月12日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	14	ゴミの分別をする	ゴミの分別のルールを知る。何ゴミかわから ない際、近くの人に尋ねる表現を学習する	村麻央	秋山文菜 岩藤かおり 下津浦安希(保 育)
16	平成28年11月19日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	10	交番へ行く (紛失)	交番で、警官に自分の落とし物の形状や色 について簡単に説明する表現を学習する	秋山文菜	金紅艶 村麻央 王達人 下津浦安希
17	平成28年11月26日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	10	消防車を呼ぶ	自宅での火事の発生など緊急時に、119番 に電話をかけ、救急車や消防車を呼ぶとき に必要な表現を学習する	金紅艶	秋山文菜 岩藤かおり 王達人(保育) 下津浦安希(保 育)
18	平成28年12月3日(土) 9:00~12:45	3.75	学習院大学 南1号館302 室	11	消防車を呼ぶ (通報訓練)	東京消防庁豊島消防署目白出張所の消防 士を迎え、119番通報訓練を行う	岩藤かおり	秋山文菜 金紅艶 王達人(保育) 下津浦安希(保 育)
19	平成28年12月10日(土) 9:15~13:00	3.75	学習院大学 南1号館302 室	10	①学習の振り返り ②メニューを読む	①学習ポートフォリオを使い、これまでの自 分の学習を振り返る ②定食屋のメニューによくある語彙を学習す る	地引愛	秋山文菜 村麻央 岩藤かおり 金紅艶(通訳)
20	平成28年12月17日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	9	郵便局へ行く	国内に小包を送る際の荷物到着日程の確 認、予算内での郵送方法の選択など、郵便 局員とのやりとりを学習する	秋山文菜	岩藤かおり 金紅艶(通訳) 王達人(保育)
21	平成28年12月24日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	10	買い物をする② (試着)	洋服購入の際の試着の依頼、サイズ・色 の変更の依頼、試着後の裾上げ等依頼表現 を学習する	岩藤かおり	金紅艶 下津浦安希(保 育)
22	平成29年1月7日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	7	お土産を渡す	同僚や近所の人に、休みの間にしたこと について簡単に話し、お土産を渡す際の表現 を学習する	村麻央	秋山文菜 岩藤かおり
23	平成29年1月14日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	10	処方箋薬局へ行く	処方箋薬局で、薬剤師から薬の飲み方に関 する説明を聞いて理解できるような薬に関 わる表現を学習する	金紅艶	岩藤かおり 山内裕美子 王達人(保育) 下津浦安希(保 育)
24	平成29年1月21日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	12	イベントに参加する ① (地域イベントへの誘 い)	・地域のイベントに友人や近所の人を誘う際 の表現を学習する ・2月4日のイベントのチラシの作成を行う	秋山文菜	金紅艶 牟田綾 山内裕美子 王達人(保育)
25	平成29年1月28日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	9	イベントに参加する ② (文化紹介)	2月4日のイベントの準備として、自分の国 の有名な食べ物や飲み物を紹介する表現を学 習する	岩藤かおり	金紅艶 山内裕美子
26	平成29年2月4日(土) 10:00~12:30	2.5	目白庭園	15	イベント (文化紹介・実践)	・自分の国の有名な食べ物や飲み物を紹介 する(実践) ・他の人の発表を聞いて、質問する	山内裕美子	岩藤かおり 金紅艶 村麻央 下津浦安希(保 育)
27	平成29年2月11日(土) 10:00~12:30	2.5	豊島区立舞 台 芸術交流 センター会議 室	5	①お礼の手紙を書く ②郵便局(実践)	①イベント協力者へお礼の手紙を書くた めに必要となる簡単な表現を学習する ②郵便局で、切手を購入し、お礼の手紙を 投函する(実践)	村麻央	山内裕美子
28	平成29年2月18日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	6	健康診断を受ける	健康診断のおしらせが来た際の対応を知 る。検診予約電話で必要となる表現を学習 する	杜長俊	山内裕美子
29	平成29年2月25日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館302 室	8	①銀行へ行く ②振り返り	①銀行の窓口で積立口座をつくるために 必要となる表現を学習する ②学習ポートフォリオを使い、これまでの自 分の学習を振り返る	山内裕美子	村麻央 金紅艶(通訳)

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第1回 平成28年7月23日以降:学習ポートフォリオの利用】

自律的・継続的な学習のための補助教材として、ポートフォリオの使用を第1回目より行った。利用の流れは以下の通り。

<初回授業>①教室内・教室外での目標の設定、②これからの学習テーマに関する自己評価。[写真:左]

<毎回の授業>③到達度に関する自己評価・他者評価[写真:中央]

<年3回(10回終了毎)>自己の学習の振り返り。[写真:右]



### ○取組事例②

【第14回 平成28年11月5日、第27回 平成29年2月11日】

「学ぶ力」を引き出すプログラムの一環として、授業で学習したことを実際に教室外で使用し、実践する機会を設けた。

11月5日は、開催場所である学習院大学の大学祭場面を活用し、授業で学習した①道聞き、②対面での買い物を実際に行った。[写真:左と中央]

2月11日には、イベント開催に協力した地域住民に対し、お礼の手紙を書いた後、実際に郵便局に出向き、切手を購入し投函する活動を行った。[写真:右]



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

2月25日に、継続的に通い続けた学習者を対象に、教室を振り返るアンケートと日本語学習を振り返るコンサルテーションを行った。

アンケートによると、どの学習者も、教室に通ったことによって、日本語を使う機会が増えた、日本語が上手になった、日本で生活しやすくなった、日本の文化・社会・習慣の知識が増えたという肯定的な評価であった。

コンサルテーションでは、アプリの使用により、ひらがな・カタカナが読めるようになった、人に頼らずにレストランに行けるようになったなど、できる行為が増えてきたという日本語能力の向上が伺える感想が聞かれた。

また、「とよた日本語能力判定」の「とよた日本語能力レベル」を評価軸に学習者とのやりとりや学習者の成果物から指導者による評価を行った。継続的に教室に通った学習者7名の内、5名は開始段階で概ねレベル2に達しており、彼らはレベル3に近い程度にまでは達することができた。他の2名についてはレベル1からレベル2にほぼ到達した。

### 2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

授業内と授業外において学習者の日本語学習を記録・支援するツールとして「学習ポートフォリオ」を使用した。

記録する意義や方法を伝えた結果、「日本語が上手になる」というような抽象的な目標ではなく、「わからないことは積極的に質問する」や「教室で勉強したことを外で使う」というような具体的な目標設定を行うことができていた。また、学習ポートフォリオを記入する時間を授業中に設けることで、内省する時間ができ、目標に対する具体的な反省の記載もあった。しかし、途中参加者には、意義や方法について、十分に伝えることができず、使用方法を間違えている場合もあった。また、自分の学習を管理することが元々得意な学習者とそうでない学習者があり、得意ではない学習者に学習ポートフォリオの効果や意義、使い方について十分に伝わらないところがあった。

一方、6名の参加者の学習ポートフォリオには、教室内で学習したことを教室外で行ったことや、「学ぶ力」を促進する時間で紹介したスマートフォンアプリの利用などについての記述があり、教室で学んだことが教室外でも生かされていることが見受けられた。

### (3) 今後の改善点について

#### 1. 参加者数及び参加者層について

・今年度は、10月以前と以降で、学習者が大きく入れ替わったが、その理由を明らかにすることはできなかった。ただ、半年あるいは1年のみの滞在を目的とした人が比較的継続的に参加したり、その一方で、就労目的で長期滞在が予想される人が1回のみ参加であったりという場合があり、参加者の背景・環境や日本語学習の目的を十分に理解した上での対応を検討していく必要がある。

・また、継続的に参加している学習者は昨年度は5名だったが、今年度は7名と昨年度より増えた。しかし、2月4日のイベント以降、学習者が急激に減少した。イベント終了後も学習者の学習動機を保つために、イベント開催時期やその後の授業内容の検討が必要である。

#### 2. 学習ポートフォリオの活用について

学習支援の一環として「学習ポートフォリオ」を使用した。今年度は、教室を開始してからまもなくして、自己の学習管理が得意な学習者には、積極的に活用してもらえたが、得意ではない学習者には効果や意義、使い方について十分に伝わらないところがあった。また、学習者の急激な入れ替わりにより、意義や目的を途中参加者には充分伝えることができなかった。今後は、過去の学習者のポートフォリオを例として、学習者に具体例を提示するなど工夫を行い、意義や目的を明確に伝える方法を模索する必要がある。

#### 3. 学習者のニーズについて

参加者から、あいさつや自己紹介以外の人との関わりに関するテーマを取り入れてほしいという声があった。そのため、イベント開催の準備授業に絡めて、「人を誘う」などの、友人とのやり取りを想定したテーマの導入を行った。あいさつや自己紹介以上の人間関係の構築に関わる項目は、「生活上の行為の事例の整理」には含まれているが、「標準的なカリキュラム案」には入らなかった項目である。今後、友人や知り合いを作るためのやりとりを想定した場面を扱うことを視野に、「標準的なカリキュラム案」には入っていない事柄についてもシラバスに盛り込んでいくことを積極的に検討する必要があると考える。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:「自律的学習を促す環境作り」を目指した研修】

目的・目標	豊島区には約2万5千人の外国人が居住し(平成28年1月現在)、就労・家族滞在といった「生活者」の多い地域である。しかし、日本語教室に継続的に通う学習者は必ずしも多くはなく、学習への動機づけ、継続的・自律的学習のための環境作りが求められている。本研修では、継続的に学習する在住外国人の日本語学習に対する動機や学習条件に配慮し、学ぶ力を伸ばす活動や教材を開発できる人材を育成する。								
対象	近隣区域内に在住・在勤・在学中、「生活者としての外国人」に対する日本語教育に携わる方々。								
取組の内容	講座タイトル:地域日本語教育ブラッシュアップ講座「学びたい」「通いたい」日本語学習の場を作ろう 動機の維持・促進をはかるための活動、学ぶ力の育成方法、自律的学習を促す教材等をテーマに研修を実施し、学ぶ力に配慮した活動を計画できる人材を育てる。授業や教室活動を批判的に振り返り、「教えー学ぶ」という役割関係の脱却をはかる。意欲・動機を維持できない要因を検討したうえで、学びを支援する方法、学ぶ力を引き出す方法について事例も参考にしつつ検討する。								
実施期間	平成28年 7月23日～平成29年 3月4日			曜日・時間帯			土曜日(14:00～17:00)		
開催回数	全 30時間 (1回 3時間 × 10回)			開催場所			学習院大学		
参加者	総数 30人			使用した教材・リソース			各回の講師が配布資料、PPT資料等を作成		
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	2人								
	日本(27人)、台湾(1人)								
カリキュラム案活用	「指導力評価について」のチェックシートを用い、参加者が自身の指導力を評価し、研修プログラムでの学びに対する動機づけを行うことを一部(3名)の受講者に対して試みた。								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成28年7月23日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	28	「学びたい」「通いたい」を探る—続けたいのはどんな時?—	研修全体の目的と概要の説明。学習の継続の阻害要因を探り、「やる気」を振り返り、続けるための工夫について学ぶ。	金田智子	岩藤かおり
2	平成28年8月6日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	22	場に応じた日本語学習を考える—教室の中と外で何が違うのか—	地域在住の外国人が日本語学習を継続することを促すために、通信講座はどのような工夫が必要なのか、そして、対面授業は何を補うのかについて学ぶ。	土井佳彦	黄臣成
3	平成28年9月3日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	22	「知りたい」「話したい」を促す教材—“Group Me!”の可能性—	教室を生き生きとした空間にするための知恵について、教材を実際に使った活動体験を通して学ぶ。	大谷千恵	秋山文菜
4	平成28年10月15日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	19	スマートフォン・タブレットは語学学習に何をもたらすか—タッチUIによる「楽しさ・手軽さ・分かりやすさ」について—	黒板や紙の資料とは違うモノを使った教室の可能性について経験し考える。実際に教材を使い、作成する体験も行う。	加藤早苗 都築鉄平	秋山文菜
5	平成28年10月29日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	23	もっと話したくなる活動の設計(1)—「話したい」について考える—	学習者が日本語で「話したい」と思うのは、どんな時か?なぜそう思うのか?これを明確に掴み、教室活動で実現する方法を学ぶ。	品田潤子	金紅艶
6	平成28年11月19日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	23	文字学習を楽しく—連想法を用いたアプリ“Memory Hint”シリーズの可能性—	日本語のひらがな・カタカナ・漢字を楽しく覚えるための「連想法」を学ぶ。最新のアプリについても紹介し、その可能性を考える。	熊野七絵	村麻央
7	平成28年11月26日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館106室	21	やる気にさせる学習環境のデザインと教材・教科書の役割	インストラクショナルデザインの観点から、やる気を引き出す、学習環境、教材、教科書について学ぶ。	島田徳子	地引愛
8	平成28年12月10日(土) 16:00～18:00	3	学習院大学 南1号館 106室	20	実際に使っている教材の分析と学びを促すための工夫	市販教材、実際の使用教材を見直し、学びを促すためにはどんな工夫を加えたらよいかについて学ぶ。	島田徳子	金紅艶
9	平成29年1月14日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 106室	21	もっと話したくなる活動の設計(2)—「話せるようになる」について考える—	学習者が、日本語が「上達しそうだ」「上達している」と実感するのはどんな時でしょうか?上達パスの見せ方と上達の実感できる教室活動を学ぶ。	品田潤子	地引愛
10	平成29年3月4日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 南1号館 201室	32 (内、公開講座参加者17)	大公開:新たな教材・活動	本講座の受講者が新たに開発したり自ら工夫した教材や活動を紹介し合うことを通して、実践を振り返り、工夫や改善点を見出す。	なし	地引愛 村麻央 秋山文菜

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第8回 平成28年12月10日】

講師：島田徳子(武蔵野大学グローバル学部准教授)、テーマ「実際に使っている教材の分析と学びを促すための工夫」

#### 1. タスクデザインについての説明

- ・タスクジェネレーター の活用方法:トピックや学習者に適したタスクタイプを選んで組み合わせる。

#### 2. タスクデザイン(活動)

教材:クリスマスメニューの載ったカタログ

##### (1) 活動の説明

(2) ペア活動:「クリスマスパーティーのメニューを決めて注文する」ための会話の内容(シナリオ)①②を画用紙に書いてみる。[写真:左]

- ①日本人同士の自然な会話
- ②日本語学習者に配慮して書き換えた会話

(3) 全体活動:上記のシナリオの共有・検討 [写真:右]

- ①各自が教室を歩きながら机に並べられたシナリオを読み、よいと思うシナリオを3つ選び、シールを貼る(ギャラリーウォーク)。
- ②シールが一番多いペアにシナリオを演じてもらい、選ばれた理由を分析する。

#### 3. 教材分析についての説明

教材:『日本語これだけ!』

- ・教材の特定の項目を分析する。どのタスクが入っているか、またどのタスクを足せばよいかを考える。

#### 4. 講座の振り返り

- ・今回の講座で学んだキーワードを各自で付箋紙に書き、黒板に貼って共有する。
- ・アンケートを記入する。



### ○取組事例②

【第10回 平成29年3月4日】

テーマ「大公開:新たな教材・活動」

1. 受講者による実践(活動・教材)の発表<公開講座:第9回までの受講者以外の参加も可とする> [写真:左]

- ・受講者がそれぞれの実践について発表をする。発表内容には第9回までの研修から学んだこと、考えたことなどを反映することが期待されるが、必ずしも、研修と直接的な関わりがあると思えないものでもよい。

・1回につき5名程度が同時に発表を行うブースセッションの形式で実施。発表者を交代し、計3回行う。

・発表者以外の受講者及び公開講座参加者は、それぞれ聞きたい発表ブースを回り、説明を聞いたり意見交換を行ったりする。

・発表に対する感想やコメントを、コメントシートに記入する。

#### 2. 振り返り

・発表の振り返り:受講者が一人ずつ、今回の発表の感想を述べ、発表を振り返る。[写真:右]

・講座全体の振り返り:ワークシートを使用しながら、講座全体を振り返り、今後についても検討する。



## (2) 目標の達成状況・成果

・本研修は「地域日本語教育ブラッシュアップ講座『学びたい』『通いたい』日本語学習の場を作ろう」と題し、学習者の動機の維持や、学ぶ力を伸ばす活動・教材の開発を全10回の一貫したテーマとして実施したものである。第9回まで、教室活動や教材作成の専門家を講師に迎え、様々な教材や活動の紹介、体験等の機会を提供したことにより、受講者は学びやコミュニケーションを促すための教室活動や教材作成について、多くの情報や知識を得ることができた。各回で実施したアンケートによると、情報・知識が得られたかを問う質問に対し、98%以上が「おおいにあった」「あった」と答えている(10回分の平均)。

・毎回、アンケートを実施し、研修内容、わかりやすさ、知識・情報の取得、考えの深まり、自らの課題解決との関連を考える時間を作ったことにより、受講者自身が研修を振り返り、自らの実践とのつながりを考えることができた。アンケート結果からは、考えの深まりが「おおいにあった」「あった」と答える割合、自らの課題解決のヒントが「おおいに得られた」「得られた」割合ともに、平均で97%と高かった。

・最終回である第10回に、受講者同士で互いの活動・教材を紹介し合うための発表を行ったことにより、自身や他者の活動や教材について意見交換をし、他者の様々な実践を知り、参考にしたり、自身の実践への自信や改善点を見出す等、今後の実践につながる機会になったことがアンケートのコメント欄からも窺えた。さらに、公開講座とすることにより、地域における日本語教育に関心を持つ、より多くの人々とも交流でき、同時に研修内容の普及をはかることができた。

## (3) 今後の改善点について

・学習者の動機や学習条件に配慮した教材や活動を開発できる人材を育成するためには、様々な教材や活動の紹介、体験は効果的であるが、さらに実際に作成したり、自身の実践につなげたりする機会をより増やすことが求められる。そのためにも、受講者自身の実践の課題や悩みを話し合い、具体的な方策を検討する時間を設け、研修で学んだことと実践を結び付けるための橋渡しとしての工夫も必要である。

・受講者自身が自ら工夫した活動や教材を紹介し合う機会を設けることは効果的であったが、お互いの実践内容を理解し、十分な検討をするためには、発表内容の検討、発表時間や発表形式等の改善が必要である。

・自律的な学びの支援者自身も自律的であるために、受講者自身が学びを振り返り自らの実践を改善していくことが求められる。そのためにも、毎回の研修の振り返りを次につなげていくことを積み重ねていくことが重要である。同時に、人材育成の観点からも、受講者が本研修を通じて、どのように変化を遂げたかを知る必要がある。本研修には、本事業の他の取組(日本語教育の実施)の担当者も参加しており、内3名に対しては、「指導力評価について」のチェックシートを用いたインタビューを研修前後の2回、実施している。しかしながら、インタビューの中で本研修に関する直接的な言及は無く、自身の指導力との関連付けは自覚的にはなされていないことがうかがえる。研修内容と各人の実践の結び付けを強め、研修を一層意義のあるものとするためにも、次期の研修では、教師ポートフォリオの活用を検討したい。

日本語教育のための学習教材の作成 【 教材の名称 :学ぶ力の育成を目指した「生活のための日本語」教材の開発】

目的・目標	生活者としての外国人が自身の日本語学習を計画し管理できる教材を開発する。教材開発を通して、日本語学習の継続を支援する環境作りに着手する		
対象	東京23区在住外国人で、日本社会で生活する上で必要となる日本語が身に付いていない方		
教材の内容	<p>学習者が自律的に日本語学習を行えるようになる。つまり、自身の学習を計画・管理し、教室内外で積極的に学習に取り組むことを可能とする教材を開発した。具体的に、毎回対面学習がやりがいや達成感を感じさせるものとなることを確実にする教材、学習ポートフォリオの要素が盛り込まれ、自身の目標を念頭に、教室外での日本語接触・日本語使用に主体的に取り組める教材である。</p> <p>&lt;教材内容&gt;</p> <p>1. 学習ポートフォリオ(ポートフォリオの使い方、コースの前に、生活の日本語とは、セッションの後に、このセッションで勉強すること、教室内の目標と振り返り、教室外の目標と振り返り、活動の記録&lt;下記⑤&gt;)、便利なページ、わたしのほんご)</p> <p>2. 各課教材 * 以下は、各課のタイトル(場面)及び【標準のカリキュラム案の番号】</p> <p>第1課 「おはようございます！」(挨拶)【VII 14 (31)07】</p> <p>第2課 「これ、お願いします！」(買い物)【III 5 (08)20】</p> <p>第3課 「トイレはどこですか？」(道聞き)【III 5 (08)06】</p> <p>第4課 「浅草に行きたいんですけど…」(電車)【IV 07 (10)02】</p> <p>第5課 「風邪の薬はありますか？」(ドラッグストア)【I 01 (02)02】</p> <p>第6課 「初めてなんですけど…」(初診受付)【I 01 (01)02】</p> <p>第7課 「すこく頭が痛いんです…」(診察)【I 01 (01)03】</p> <p>第8課 「うちに赤ちゃんがいます。助けてください。」(地震)【I 02 (05)03】</p> <p>第9課 「2人です！禁煙で。」(レストラン)【III 05 (08)25】</p> <p>第10課 「すみません、おすすめは何ですか？」(レストラン)【III 05 (08)27】</p> <p>第11課 「すみません、区役所はどこですか？」(道聞き)【IV 8 (12)05】</p> <p>第12課 「すみません、これは何ゴミですか？」(近所の人に聞く)【VIII 15 (34)02】</p> <p>第13課 「すみません、財布をなくしたんですけど…」(交番)【I 2 (4)04】</p> <p>第14課 「救急です。夫が倒れています。」(通報)【I 2 (5)07】</p> <p>第15課 「アメリカに送りたいんですけど…」(郵便局)【X 21 (45)02】</p> <p>第16課 「これのLサイズありますか？」(買い物)【III 05 (08)12~14】</p> <p>第17課 「あ、お久しぶりです。」(休日の話)【VII 14 (31)07】</p> <p>第18課 「1日3回、食後ですね。」(処方箋薬局)【I 01 (02)03】</p> <p>第19課 「よかったら、一緒に行きませんか？」(イベントのお誘い)【VIII 16 (35)03】</p> <p>第20課 「ベトナムコーヒーを紹介します。」(文化紹介)【VII 14 (32)】</p> <p>第21課 「検診を受けたいんですけど…」(区役所の健康診断)【I 01 (03)01】</p> <p>第22課 「積立をしたいんですけど…」(銀行)【III 06 (09)01】</p> <p>3. 音声教材スクリプト(教師用)</p> <p>* 各課の構成は以下の通り。</p> <p>①導入(生活場面への意識を高め、現状を把握し学習動機を引き出す)</p> <p>②練習(言う練習、読む練習、音声を用いた練習等)</p> <p>③まとめ(一連の行動について達成度合いを確かめる)</p> <p>④語彙リスト(自らのレベルに応じ、理解語彙・使用語彙の数を増やしていく)</p> <p>⑤活動記録(対面学習の成果について自己評価・他者評価)</p>		
実施期間	平成28年5月1日～平成29年3月20日	成果物のリンク先	
作成教材の想定授業時間 コマ数と頁数	1回 2.5時間 × 30回 = 75時間分	教材の頁数	199ページ(含. 音声教材スクリプト)
カリキュラム案活用	「標準的なカリキュラム案」をもとに、教材の内容(学習項目、テーマ、社会文化知識)を決めた。「教材例集」を参考に、学習の動機付けや学ぶ目標が分かりやすい教材を作成した。さらに、「日本語能力評価について」の学習ポートフォリオの考え方を参考に、学習の計画・管理、活動の振り返りが可能となる教材作りを試みた。		
教材の活用方法	本事業における「学ぶ力を身に付ける日本語教室」(日本語教育の実施)で使用し、必要な改善を加えていった		
今後の活用の予定	本機関で実施する日本語教室で使用し、更なる改善を加えるとともに、市販を目指した見直しや編集を行う		



目次



導入



練習

## 4. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的・目標

継続的・自律的な学びを促す活動・教材を開発し、ニーズや学習環境の異なり・変化に配慮した日本語教育プログラムを実施する。また、自律的な学びをテーマに研修を実施し、人材育成を通じて地域日本語教育の充実に貢献する。公共施設や医療機関等の協力も得つつ教材を開発し、一般市民の日本語学習理解を深めると同時に、日本語教育を通じ、知(地)の拠点として地域に開かれた大学となることをめざす。

### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1. 継続的・自律的な学びを促す活動・教材の開発  
作成教材については、本事業で実施する日本語教室で使用し、次のような成果が見られた。  
・多様なイラストが、生活場面に関わる経験や社会文化知識を表出するための共通言語や刺激となり、多くのやりとりを生み出した。学習者同士で「これはなんて言うの」「この時はどうするの」と確認するなど、教材に触発されて問いを発したり、あるいは教材を媒体として学び合ったりする様子が多く観察された。このことから、作成教材が主体的かつ協働的な学習を促すリソースになりつつあることがうかがえる。  
・学習者のアンケートには、復習する際に教材を見て学んだ内容や表現を思い出しているという声があった。授業外で自律的に日本語学習を行うためのリソースとして生かされつつある。

2. ニーズや学習環境の異なり・変化に配慮した日本語教育プログラムの実施  
・企画段階では、1教室(全30回、75時間)のみの実施の予定であったが、参加が想定される学習者のニーズや学習環境を考慮し、2教室を設定した。これにより、一方に対しては日本語を用いる場面を広げ、新たな人間関係を築くための内容を提供し、もう一方に対しては、日本での生活を始めるにあたって必要となる日本語を学ぶ機会、日本語の文法や文字についての基礎知識を獲得するための教室活動を提供することができた。

3. 人材育成を通じた地域日本語教育の充実  
・企画段階では受講予定者を12名としていたが、30名以上の申し込みがあった。他県からの参加があり、広い範囲で地域日本語教育の充実に貢献できただけでなく、各地でコーディネーター等指導的立場にある方々も受講しており、影響力のある研修となったと考える。また、豊島区内の日本語教室の方々の参加も複数あり、10回の講座を通じ、教室の課題についての理解が相互に進み、横のつながりが強化された。

4. 地域への貢献  
・教室運営においては、一般市民及び公的機関の協力を得ることが定着している。教材開発においても学外の人・組織の協力を仰ぐ可能性を探り、一般市民の日本語学習に対する理解を深めていきたい。

### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

1. 本事業内での活用について  
・既述のとおり、本事業では日本語教室及び教材作成において、標準的なカリキュラム案に準拠しつつ、学習者の目標や言語環境に応じて、カリキュラム案には含まれていない場面や言語行動を、「生活上の行為の事例の整理」にある項目を参考にして適宜、取り入れている。標準的なカリキュラム案や「生活上の行為の事例の整理」が公表されていることにより、教室のシラバス設計や教材作成において、特定の場面に偏りなくバランスの取れたテーマ設定ができると同時に、生活者である学習者のニーズに合わせた対応ができていく。

・標準的なカリキュラム案も「生活上の行為の事例の整理」も「読む」「書く」が必要な場面や言語行動に限りがある。また、コミュニケーションの媒体の変化や、コミュニケーションを助ける各種ソフト、アプリの発展により、標準的なカリキュラム案の作成時期と比べ、現在の日常生活の中で繰り返しられる読み書きに関する行為は大きく変容している。「読む」「書く」が求められる場面とそこで繰り返しられる言語行動の見直しが必要と思われる。

2. 地域での活用について  
・研修事業において、標準的なカリキュラム案の認知度を確認したところ、知らないと答えた人が参加者全体の3割程度いた。本研修の受講者は、比較的経験の長い方が多く参加していたことを考えると、カリキュラム案のさらなる周知が求められるのではないかと。

### (4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・既述のとおり、豊島区に本事業を後援していただき、日本語教室及び研修について、豊島区HPを通じた広報、豊島区施設へのチラシの設置、配布等にご協力をいただいた。運営委員にもなっていたり、広報に加え、他の日本語教室や組織との連携についての指導・助言をいただき、ゴミ処理や健康診断に関する重要な情報もご提供いただいた。豊島区及び近隣地域の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の関係者及び興味のある人々への広報が可能となり、特に他の日本語教室との連絡は取りやすくなっている。

・日本語教室の実施において、公的機関に加え、住民の自主サークルとの連携ができた。外国人住民の存在や、日本語学習の実態について初めて知識を得たという日本人住民もいた。実際の交流を通じて、外国人に対する戸惑いが払拭された、外国人の使う日本語を理解しようとする意識が高まった、といった感想も聞かれた。

### (5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・本学HPを通じての広報や、関係各所(幼稚園・保育園、小学校等)へのチラシ送付に加え、前項(4)に記したように、豊島区に協力を得て、区のHPや区内ネットワークを用いた広報を行った。今年度からは、豊島区HPの中に、日本語教室についての多言語対応のチラシも掲載されたことから、日本語が全くできない学習者からの問い合わせや参加が大幅に増えた。

・facebook上に、日本語教室の様子を随時報告しており、その中には学習者自身によるメッセージが寄せられることもある。facebookの閲覧者、学習者及び修了者によるクチコミによって、新たな学習者が参加するということがしばしば起こっている。

・研修においては、豊島区内の日本語教室にはチラシの郵送もしくは直接持参して配布するなど積極的な広報を行った。その結果、豊島区HPに掲載されている区内日本語教室9箇所のうち、5箇所からの参加が得られた。

・研修に関しては、最終回に行った受講者の実践紹介・発表を公開講座にし、より多くの方々に参加していただき、研修事業の成果を広く発信することができた。発表の中に、本事業の日本語教室に関するものもあり、一部ではあるが、日本語教室の成果についても発信した。

・本学HP及び日本語教室についてのfacebookによる情報発信の結果、日本語教室の見学希望者が時折あり、それに応えている。

・これまで、日本語教室で作成した教材について、一般公開してほしいという要望が寄せられることがあった。本事業で作成した教材は、今後、積極的に公開し、他の実践者からの反応を得て、よりよい教材へと改善していきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

「継続的・自律的な学びを促す」を核とした事業であったが、以下のような課題・改善すべき点がある。

1. 日本語教室について

・最後まで教室に通い続ける人は、学習の管理ができ、学習の効果を実感している人である。その一方で、ゼロから学習を始めた人は最後まで通い続けることが困難であり、早期にやめてしまう場合が少なくない。こういった学習者に対し、学ぶ力を引き出し、学ぶ方法を身に付けることのできる教室活動を行う必要がある。

・本学の日本語教室を修了後、自らの生活の中で学習を継続的に行っている人もいれば、学習をやめている人もいる。後者は、学習を続けるための支援が必要であり、そういった人の受け皿がないのが現状である。本学の日本語教室自体の工夫をすること、他の日本語教室との連携・協力を深め、他教室での継続学習を促すことなど、修了生の学習継続を支援する方策を練ることも今後の課題である。研修事業等を通じて、他教室との連携・協力、情報交換を行い、区内の日本語教室が一体となって在住外国人の日本語学習を支援する体制を整える必要がある。

2. 人材育成について

・「1.」で指摘したように、学ぶ力を引き出し、学ぶ方法を身に付けることのできる教室活動を計画できる人材を育成する必要がある。受講者自身の実践を振り返り、各人の現場での新たな試みや改善につなげる機会を十分に組み込んだ研修、具体性を持った研修を行うことにより、継続的・自律的な学びを促す授業設計、活動計画のできる指導者の育成が可能となると考える。同時に、研修担当者が受講者の現場に対する理解を深めることも重要である。

3. 教材作成について

・日本語教室での使用の際、教材をじっくり読む時間が足りない、前もって教材を受け取り予習をしたい、という学習者の声があった。教材の意図の明確化を図るとともに、予復習や教室外学習と教室内学習をどう位置付けるか、検討が必要である。

(7) その他参考資料

・参加者募集用チラシ(日本語教室、研修)、アンケート(日本語教室学習者向け、同ゲスト向け、研修受講者向け)

# ゲストセッション・アンケート

1. 外国人に対する印象は、今回の活動を実施する前と、実施した後で変わりましたか。

どんな点で変わりましたか。

➤ 変わりましたか？

➤ どんな点で？

2. 今回の活動は、参加した外国人、または活動を準備した自分自身にとって、役に立ったと思います

か。どんな点で役に立ったでしょうか。

➤ 参加した外国人にとって

➤ 準備した自分自身にとって

3. 今回の企画はどうでしたか？もし、来年度も今回のような機会がありましたら、何か工夫したいと思

われることはありますか。それはどんなことでしょうか。

➤ 今回の企画はどうでしたか

➤ 来年度同じ企画をするにあたっての工夫



きょうしつ  
教室アンケート Questionnaire

今後のわくわくとしま日本語教室を改善する（良くする）ための質問です。

The questions below are those which we need to know in order to improve Wakuwaku Toshima Japanese classroom.

I. 以下の文について、あてはまる 1~5 のうち、あてはまる数字に○をつけてください。  
その後の質問に、自由に答えてください。

Choose the right number from 1~5 by marking it with ○. The questions without numbers, are the open ones.

1. この教室に来る前よりも今のほうが、生活の中でよく日本語を使うようになったと思いますか。  
I use Japanese more often now in my daily life after I came to this class.

まえ 前より		まえ 前よりも		まえ 前よりも
つか 使わなくなった	か 変わらない	すこ つか 少し使うようになった	まえ つか 前よりも 使うようになった	つか かなり使うようになった
I used Japanese	Not much changing	A little more often than	More often than before	Much quite often than
More before than now		before		before
1	2	3	4	5

<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に日本語を使うようになりましたか。  
For people who have filled 3 to 5, when do you use Japanese in your daily life?

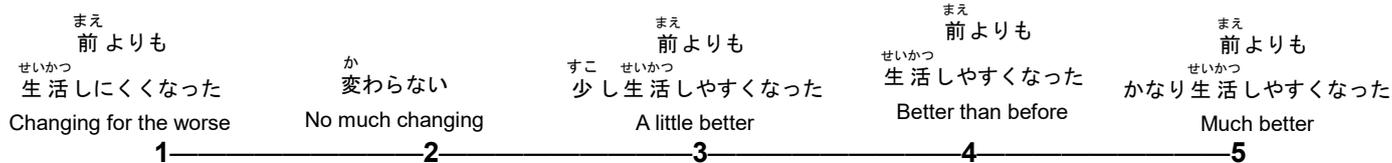
2. この教室に来るようになって、日本語が上手になったと思いますか。  
I feel my Japanese got improved after I came to this class.

まえ 前よりも		まえ 前よりも		まえ 前よりも
へた 下手になった	か 変わらない	すこ じょうず 少し上手になった	まえ じょうず 前よりも上手になった	かなり じょうず 上手になった
No much changing	No much changing	Improved a little	Improved	Improved a lot
1	2	3	4	5

<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に上手になったと感じますか。  
For people who have filled 3 to 5, when do you feel that your Japanese got improved.

3. この教室きょうしつに来る前くよりも今いまのほうが、日本にほんで生活せいかつしやすくなったおもと思いますか。

I feel that I have a better life in Japan since I have come to this classroom.

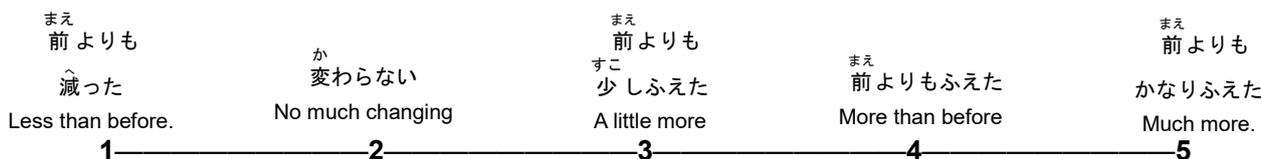


<3から5の人ひと> Q.たとえば、どんな時ときに生活せいかつしやすくなったかんと感じましたか。

For people who have filled 3 to 5, when do you feel that you have a better life in Japan?

4. この教室きょうしつに来る前くよりも今いまのほうが、日本にほんの文化ぶんか・社会しゃかい・習慣しゅうかんについて知しっていることがふえたおもと思いますか。

I got more knowledge of Japanese culture, society, and manners after I came to this class.

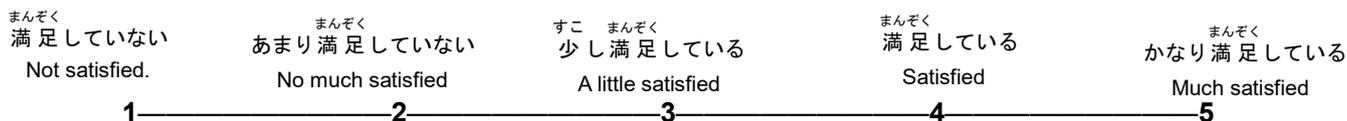


<3から5の人ひと> Q.たとえば、どんなことですか。

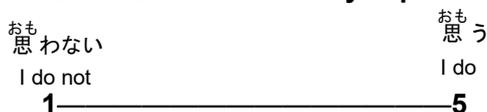
For people who have filled 3 to 5, what kind of knowledge did you get more?

5. この教室きょうしつの内容ないように満足まんぞくしていますか。

I am satisfied with the contents of this classroom.



6. もっと日本語を勉強べんきょうしたいおもと思いますか。I want to study Japanese more.



7. 以下の3点について、

わくわくとしま日本語教室にほんごきょうしつを振り返ふって、良いよと思う点おもを具体的に書くいてくださいたいてき。

Tell us in detail about the good aspects of our class after you review the whole year.

① 教室運営きょうしつうんえいについて

About what we did in the classroom

② 読み書きよみかきの時間じかんについて (休み時間やすみじかん後の10分じゅんの時間じかん)

About the time for reading and writing (the 10-min period after the break)

③ テキストについて

About the 5 page materials for every class

8. わくわくとしま日本語教室を振り返って、良くなかった点・改善したほうがいいと思う点を具体的に書いてください。来年の教室をよりよくするための質問ですので、意見を自由に書いてください。  
Tell us in detail about the bad aspects or aspects that should be improved after reviewing the whole year.  
We want to know your opinion because we want to improve the quality of this classroom.

① 教室運営について

About what we did in the classroom

② 読み書きの時間について（休み時間後の10分の時間）

About the time for reading and writing (the 10-min period after the break)

③ テキストについて

About the 5 page materials for every class

いちねんかん、つか、きま  
一年間、お疲れ様でした！ そして、ありがとうございました！！



きょうしつ 教室アンケート調査問卷 調査問卷

今後のわくわくとしま日本語教室を改善する(良くする)ための質問です。
以下是為改善今後豊島 WAKUWAKU 日语教室的問卷 / 以下是为改善今后丰岛 WAKUWAKU 日语教室的問卷

I. 以下の文について、あてはまる1~5のうち、あてはまる数字に○をつけてください。
その後の質問に、自由に答えてください。

以下の句子・從1~5選出適合的號碼。沒有數字的問題請自由回答。
以下的句子・从1~5中选出适合的号码。没有数字的问题请自由回答。

1. この教室に来る前よりも今のほうが、生活の中でよく日本語を使うようになったと思いますか。
自从我來到這個教室之後，我在生活中使用更多日文 / 自从我來到这个教室之後，我在生活中使用更多日文。

Table with 5 columns representing frequency levels from 1 to 5, with Japanese and Chinese descriptions for each level.

<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に日本語を使うようになりましたか。
選3到5的人，在哪一些時候使用日文的頻率變多了？ 選3到5的人，在哪一些時候使用日文的頻繁變多了？

Large empty rectangular box for handwritten answers to question 1.

2. この教室に来るようになって、日本語が上手になったと思いますか。
自从我來到這個教室，我覺得我的日語進步了 / 自从我來到这个教室，我覺得我的日語進步了

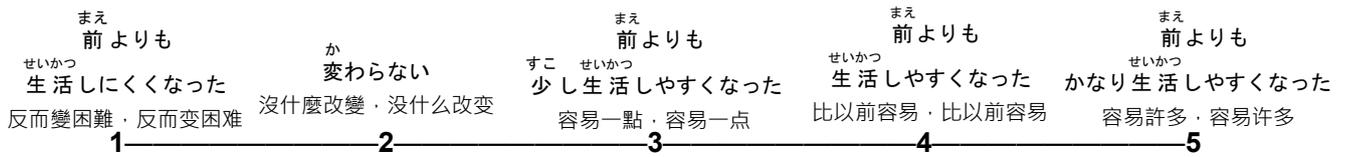
Table with 5 columns representing frequency levels from 1 to 5, with Japanese and Chinese descriptions for each level.

<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に上手になったと感じますか。
選3到5的人，什麼時候你覺得日文進步了？ / 選3到5的人，什麼時候你覺得日語進步了？

Large empty rectangular box for handwritten answers to question 2.

3. この教室<sup>きょうしつ</sup>に来る前<sup>く</sup>よりも今<sup>いま</sup>のほうが、日本<sup>にほん</sup>で生活<sup>せいかつ</sup>しやすくなった<sup>おも</sup>と思いますか。

來這教室學日文之後，你覺得目前的日本的生活比較容易了。  
 来这教室学日语之后，你觉得目前的日本的生活比较容易了。



<3から5の人> Q.たとえば、どんな時<sup>とき</sup>に生活<sup>せいかつ</sup>しやすくなった<sup>かん</sup>と感じましたか。

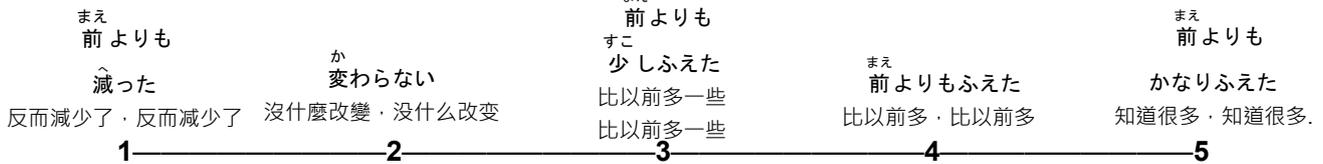
選3到5的人，什麼時候你覺得你在日本的生活變得容易了？

选3到5的人，什么时候你觉得你在日本的生活变得容易了？

4. この教室<sup>きょうしつ</sup>に来る前<sup>く</sup>よりも今<sup>いま</sup>のほうが、日本<sup>にほん</sup>の文化<sup>ぶんか</sup>・社会<sup>しゃかい</sup>・習慣<sup>しゅうかん</sup>について知っていることがふえた<sup>し</sup>と思いますか。

在我來到這日文教室之後，我覺得我對日本的文化，社會，跟習慣知道更多了。

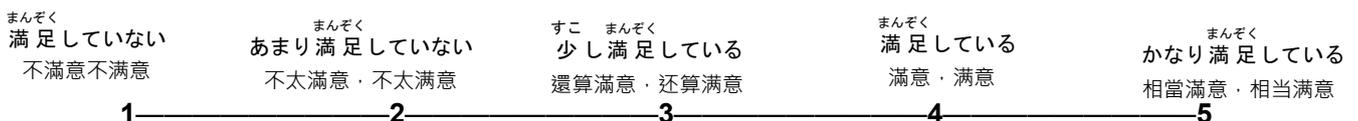
在我来到这日本教室之后，我觉得我对日本的文化，社会，跟习惯知道更多了。



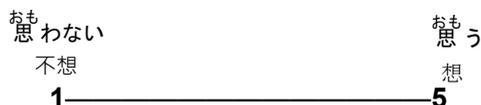
<3から5の人> Q.たとえば、どんなことですか。

對於選3到5的人，哪一方面知道更多了？ / 对于选3到5的人，哪一方面知道更多了？

5. この教室<sup>きょうしつ</sup>の内容<sup>ないよう</sup>に満足<sup>まんぞく</sup>していますか。你對這教室的內容滿意嗎？ / 你对这教室的内容满意吗？



6. もっと日本語を勉強したい<sup>おも</sup>と思いますか。你想學更多日文嗎？ / 你想学更多日文吗？



7. 以下の3点について、

わくわくとしま日本語教室を振り返って、良いと思う点を具体的に書いてください。

回想這一整年，你覺得我們教室的優點在哪裡？請具體描述。

回想这一整你，你觉得我们教室的有点在哪里？请具体描述。

① 教室運営について

關於教室的活動／关于教室里的活动

② 読み書きの時間について（休み時間後の10分の時間）

關於閱讀跟寫作的部分(休息後的十分鐘)／关于阅读和写作的部分（休息后的十分钟）

③ テキストについて

關於每周發的5張的資料／关于每周发的5张资料

8. わくわくとしま<sup>にほんご</sup>日本語教室を振り返って、良<sup>よ</sup>くなかった点・改善<sup>かいぜん</sup>したほうが良いと思<sup>おも</sup>う点を具体的<sup>くたいてき</sup>に書いてください。来<sup>らいねん</sup>年の教室<sup>きょうしつ</sup>をよりよくするための質問<sup>しつもん</sup>ですので、意見<sup>いけん</sup>を自由<sup>じゆう</sup>に書いてください。

回想這一整年，請具體寫出你覺得這教室應該改善的部分。這是為了改善本教室的教學品質，我們想知道你的意見。

回想这一整年，请具体写出你觉得这教室应该改善的部分。这是为了改善本教室的教学品质，我们想知道你的意见。

① 教室<sup>きょうしつ</sup>運営<sup>うんぎ</sup>について

關於教室的活動／关于教室里的活动

② 読<sup>よ</sup>み書<sup>か</sup>きの時間<sup>じかん</sup>について（休<sup>やす</sup>み時間<sup>じかん</sup>後の10分<sup>ぷん</sup>の時間<sup>じかん</sup>）

關於閱讀跟寫作的部分(休息後的十分鐘)／关于阅读和写作的部分（休息后的十分钟）

③ テキストについて

關於每周發的5張的資料／关于每周发的5张资料

いちねんかん<sup>い</sup>、つか<sup>つか</sup>さま<sup>さま</sup>  
一年間、お疲れ様でした！ そして、ありがとうございました！！

